

行財政システム再構築プラン

策定に向けて

「皆さんとの協働によるプラン策定」

広報9月号でお知らせしたとおり、町では、住民の皆さんと行政の協働によるまちづくりをより推進するとともに、行財政全般の抜本的な改革を実施し、簡素で効果的、効率的な行財政運営を行うため、行財政システム再構築プランの策定を進めています。

このプランの素案作成前の段階から、住民の皆さんの参加をいただき、広く意見を反映するための方法の一つとして9月10日には、各団体から推薦を受けた方々によるワークショップを開催しました。

再構築を図るための4つの柱



住民参加の推進

住民との協働、情報の共有など

- 事務事業の見直し
民間団体の推進、協働・業務等の刷新など
- 行政組織の見直し
行政組織の見直し、定員管理の見直しなど
- 財政基盤の健全化
歳入確保に向けた取り組み、将来に向けた財政確保など

↓今回はこの部分の話です
パブリック・インボルブメント（PI）
・ワークショップの実施
・グループインタビューの実施

パブリックコメントの実施

計画づくりに住民参加

パブリックインボルブメントとは・・・

計画の素案をつくる前の早い時期から、団体や住民の意見交換の実施などさまざまな手法で、住民の意向、意見を取り入れて進めていくこと。

ご意見やアイデアを随時募集しています。
企画部行財政改革担当
☎23-2393 FAX 25-5555
E-mail: gyokaku@town.tobetsu.hokkaido.jp
までお気軽にお寄せください。

1 ワークショップを開催

～各団体参加者が話し合う～

様々な立場の人が参加し、一定のルールで、参加者一人ひとりが対等な立場で意見やアイデアを出し合い、結果をまとめていくこと。



9月10日、「ゆとろ」で町内の団体から推薦があった参加者20名による第1回ワークショップを開催しました。

当日は、町長からの挨拶の後、参加者の自己紹介、町から再構築プランの策定趣旨や町民参加によるプランづくりについての説明をしました。その後、コーディネーターの江口先生（北海道医療大学歯学部教授）を中心に、住民参加、事務事業など「4つの柱」の項目に沿って参加者がこれからの当別町に対する思いを文章にする作業を行いました。

9月30日には、第2回ワークショップが開催され、テーマ別にグループに分かれて具体的な検討が進められました。この内容については、次号で詳しくご紹介します。

(敬称略)

江口 正尊	北海道医療大学 ※ワークショップコーディネーター（会議の進行・調整、まとめ役）		
加藤 孝弘	J A北石狩青年部当別ブロック長	稲村 英樹	当別町4Hクラブ会長
泉 吉満	西当別ブロック長	津崎 里美	当別町消費者協会監事
市川 栄子	女性部当別ブロック長	野口 和之	当別町体育協会副会長
石田 まさ子	女性部西当別ブロック長	辻野 浩	当別町観光協会理事
安藤 頼孝	当別町商工会理事	大森 光明	当別町子ども会育成連合会会長
松岡 良尚	会員	袴田 万紀子	当別町ボランティア連絡協議会会員
安藤 英司	青年部長	河野 芳子	
小林 万世	婦人副部長	山本 幹彦	当別エコロジカルコミュニティー理事長
安部 慎	当別青年会議所監事	大原 裕介	ゆうゆう24コーディネーター
村上 スミ子	当別町女性団体連絡協議会会長	渡辺 真理	当別子どもの未来を守る会代表
大西 慶子	会計	坂本 千鶴	プレシヤスネット副代表



2

～世代別に本音でトーク～ グループインタビューの 参加者募集

少人数のグループに、司会進行役がついて、あるテーマに沿って座談会形式で意見を聞くこと。



テーマは「当別町の未来への基礎づくりについて」と「住民参加について」

司会進行役は道医療大学看護福祉学部教授 横井寿之さん

当別町について日頃思っていることやこんな町になったら良いと思うことなど、直接、意見をお聞かせください。

☑募集人数 各グループ6名程度（応募多数の場合は抽選。）

☑グループ内訳・対象者・開催日時 右の表のとおり

☑応募方法 電話、FAXまたは、メールで次の事項をお知らせください。

①氏名②性別③年齢・生年月日

④住所・電話番号⑤職業⑥希望グループ
※第3グループのみ子供の年齢と学年

☑応募締切 10月20日（水）

☑応募先 企画課企画振興係（☎23-3042/FAX25-5555/

メール:kikaku@town.tobetsu.hokkaido.jp

グループ名	対象者	開催日時
第1グループ 高校生・大学生男女グループ	高校生・大学生の男女	11月7日（日） 13時から
第2グループ 若者男女グループ	16歳～29歳の男女	11月7日（日） 10時から
第3グループ 育児・教育期女性グループ	未就学児、小中学生の子供がいる母親	11月5日（金） 13時から
第4グループ 社会人男女グループ	30歳～59歳の男女	11月5日（金） 19時から
第5グループ 高齢者男女グループ	60歳～75歳の男女	11月5日（金） 10時から

※開催場所は直接参加者に連絡します。

※交通費など費用負担はいたしません。ご了承ください。

※ワークショップに参加している方はご遠慮願います。

ワークショップ、グループインタビューの内容は、広報誌、ホームページで随時お知らせします。今後は、素案（原案）ができた段階でのパブリックコメントの実施などを予定しています。



一面に広がるパッチワークの丘

「丘陵のまち」美瑛町を視察しました

～当別町美しい景観委員会～

9月3日、美しい景観委員会の委員の皆さんが美しいまちづくりの参考に美

しい丘が広がる上川郡美瑛町を視察研修し、同町の政策調整室担当者から、景観条例、景観づくりの取り組みなどの説明を受けました。

この町は観光客が年間120万人以上も訪れる全国的に有名な「丘のまち」で、平成元年にリゾート法に基づく「富良野大雪リゾート地域整備構想」の指定を受けました。その後、美瑛の丘を撮り続ける写真家前田真三さん（「拓真館」創立者）の風景写真が注目を浴び、テレビや雑誌などに取り上げられ、美瑛の丘を眺めに来る観光客や町外からの移住希望者が増加し始めました。これを機に町全体が、自然保護や景観を守る意識が高まり、「美瑛町景観条例」や「美瑛の美しい景観を守り育てる条例」が作られました。

もともと地元の方達は景観に対して特別の意識を持っていた訳でも、美しい農村景観を作ろうとしていたものでもなく、農業を営む中での結果として生

まれたものでした。でも、その景観を守るための取り組みは先進的で、十分な配慮がなされていることが説明から聞き取れました。

その一例として次のようなエピソードがあります。つい最近、丘陵に広がる「パッチワークの丘」が見える景観ポイントに、その美しい景観を中継するためあるテレビ局からパノラマカメラを設置したいという申し出がありました。美瑛を全国にPRする絶好のチャンスですが、その場所にカメラを置くには、高い支柱や電柱などの設置が新たに必要で、そのことが美しい景観を損ねてしまうとテレビ局に再検討を促したそうです。

このことから、景観を守ることに対しては「景観審議会」等で十分に検討し、決して名声や経済効果のために妥協しないという姿勢が美瑛の美しい景観を維持しているということを知ることができました。今後、この研修で学んだことを活かし、当別の魅力を高めていきたいと考えています。

〔担当 まちづくり推進課（☎23-3073）〕

